

農林水産大臣賞受賞

日本一楽しい村宣言！豊かな自然や伝統文化を生かした体験を提供

受賞者 やま うち 山の内地域づくり協議会

(山形県村山市)

第1図 位置図



■ 地域の沿革と概要

村山市は山形県のほぼ中央部、東経 140 度 23 分、北緯 38 度 29 分に位置し、東西に 22.1 km、南北に 14.9 km の東西に長い形をしている。総面積は、196.83 km²となっている。北は尾花沢市と大石田町、南は東根市と河北町に接し、さらに西は葉山を境界にして寒河江市、大蔵村と接している。

人口は昭和 22 年の 42,777 人をピークに年々減少し、平成 27 年の国勢調査では 24,696 人となっている。

土地利用状況は行政区域面積 196.83 km²のうち、田畑が 27%、宅地が 4%、山林原野が 45%、その他が 24%となっており、比率から見ても、山林に囲まれた農業都市であることが伺える。

気候は内陸性気候を示しており、夏季と冬季及び昼と夜の寒暖の差が大きい。降雪期は 11 月中旬から 3 月上旬ころまでで、山間部では 2～3 m 余りの積雪となる豪雪地帯でもある。

■ むらづくりの概要

1. 地区の特色

村山市の農業については、水稻を基幹作物とした、果樹や野菜、畜産、花き等を合わせた複合経営が主体であり、特におうとう（さくらんぼ）、すいか、りんご、西洋なし（ラ・フランス）等の産地化が進んでいる。

山の内地域は村山市の北西部に位置し、しもごや おおいし あかいわ おおとりい 下小屋・大石・赤岩・大鳥居の 4 集落からなる世帯数 53 戸、人口約 210 名の山村集落である。

第1表 地区の概要

事項	内容	
地区の規模	集落の集合体	
地区の性格	地縁的な集団等	
農家率 (内訳)		52.8%
	総世帯数	428戸
	総農家数	226戸
専業別農家数 (内訳)	専業農家	31戸
	1種兼業農家	21戸
	2種兼業農家	68戸
農用地の状況 (内訳)	総土地面積	5,795ha
	耕地面積	648ha
	田	452ha
	畑	181ha
	樹園地	11ha
	牧草地	4ha
	耕地率	11.2%
	農家一戸当たり耕地面積	5.2ha

2. むらづくりの基本的特徴

(1) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機、背景

山の内地域は4集落からなる山村集落であり、地域住民の高齢化(約38%)、コミュニティの衰退、小学校の閉校により、地域存続の危機意識が高まり、地域住民自ら「なんとかさんなね(なんとかしなければいけない)」という意識が芽生えた。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

住民がワークショップ等に参加したことにより、豊富な地域資源(冬季間の最高積雪量が約3mに達する豪雪地域の雪、葉山のブナ林・富並川の清流と川魚、高冷地野菜・山菜等)を有していることに気付き、広く有効活用していきたいとの思いを持った。

地域農産物を活用した昔から伝わる郷土料理、山間部ならではの炭焼きの文化などを、高齢者から次世代へ、今伝えなければという思いがでてきた。

ウ 現在に至るまでの経過等

平成19年、小学校跡地の活用を検討する組織を立ち上げ、地域活性化に向けた検討を開始、平成20年に旧山ノ内小学校校舎を宿泊・体験型の「山の内自然体験交流施設やまばと」として整備したことにより、地域の気運が一気に高まった。



写真1 やまばと外観



写真2 産直施設販売状況

施設開設と合わせて産直施設をオープンし、5月下旬～11月下旬の週末営業を行い、山菜やきのこ、高冷地野菜を販売しており、また、平成24年度には、山形県森のめぐみ王国やまがた支援事業の補助を受けて加工施設の整備を行い、年間を通じた農林産物の加工・販売が可能になった。これらのことにより、県内外からのファンを集め、交流拡大や農業振興、経済活性化に寄与する結果となっている。

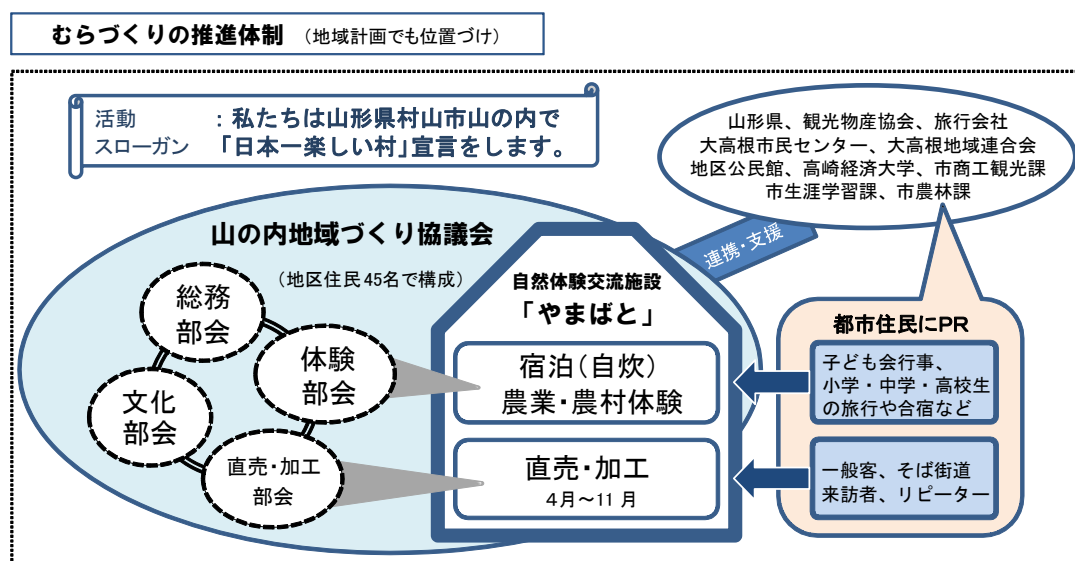
加えて、ここを拠点にした体験事業(農作業体験、山菜農作物収穫・加工体験、炭焼き体験など)や教育旅行受入れ(塩竈市杉の^{しおがましずき}入小学校)を展開することで、地域の高齢者の生きがいづくりや、コミュニティ力向上に役立っている。

(2) むらづくりの推進体制

ア 組織体制、構成員の状況

地域住民で構成する「山の内地域づくり協議会（会員 42 名）」を設立し、事業を効率よく推進するために、総務部会、直売・加工部会、文化部会、体験部会の実働組織を設けた。直売・加工部会については女性が中心となって活躍しており、体験部会については、伝統的な炭焼き体験等は高齢者、農業体験は農業者、トレッキング等は若者とそれぞれ役割を分担して活躍している。

第 2 図 むらづくり推進体制図



イ 連携してむらづくりを行う行政等との関係

平成 19 年、村山市や山形県が地域の「大高根市民センター」と連携を図り、閉校した小学校（旧山ノ内小学校）の利活用に向け支援を展開。

また、高崎経済大学の指導により、地域活性化を目的として「大高根の地域づくりを考える会」と称したワークショップを月 1～2 回、延べ 8 回にわたり開催、延べ 280 人が参加し、地域の課題、その解決策、実践方法について話し合いを行っている。さらに、「地域の将来像」、「目標」、「目標を達成するための取組み」等を「地域計画」として取りまとめたことにより、これらの事業を計画的かつ効果的に進める準備が整った。

なお、山の内地域づくり協議会が活動拠点としている「山の内自然体験交流施設やまばと」は村山市の施設で、当該団体へ管理委託されている。

ウ 地域づくり協議会と連携する組織等との関係

各種事業の運営については、「やまばと」を拠点に、山の内地域づくり協議会の部会ごとに対応している。「宿泊／農業・農村体験」など体験事業は、体験部会が市観光物産協会や旅行会社、各小中学校、

高校などと連携して受入れを進めている。また、「直売・加工」では、直売・加工部会が一般客やそば街道に訪れた客、リピーターなどを対象に販売。

これらの誘客については、関連団体の協力を得て、仙台圏など都市部でのイベント開催時の周知活動や教育旅行シンポジウム等において宣伝活動を進めている。

■ むらづくりの特色と優秀性

1. むらづくりの性格

山村集落である山の内地域には、地域住民の高齢化やコミュニティの衰退、小学校の閉校により、地域住民の危機意識と共に、自ら「なんとかさんなね」という意識が芽生えた。

また、高崎経済大学の指導によるワークショップの開催により住民がひざを突き合わせ、地域の課題、その解決策、実践方法について話し合った結果、山の内地域の豊富な地域資源や郷土料理、伝統行事などを再認識し、次世代へ伝えなければいけないという「思い」が出てきた。

そして、何よりも平成20年度の「山の内自然体験交流施設やまばと」の整備が地域の気運を一気に高めた。

ここを拠点に、体験事業（農作業体験、山菜・農作物収穫・加工体験、炭焼き体験など）や教育旅行受入れ（塩竈市杉の入小学校）の展開、産直施設や加工施設の整備により、県内外からのファンやリピーターを集め、交流拡大や農業振興、経済活性化に大きく寄与する結果となっている。

2. 農業生産面における特徴

（1）販売・加工の取組み

産直においては、地域の山菜・きのこ、高冷地野菜と、市街地の産直とは差別化したものを提供。また、お茶スペースを設け、山菜等の試食、調理方法などの情報の提供により、市内のみならず仙台圏からもお客様が訪れている。（5月下旬～11月下旬の週末営業、冬期間閉鎖）

加工施設においては、各家庭に受け継がれている漬物や郷土料理を発掘するために「おらが自慢の漬物大集合」等のイベントを企画しながら、商品化し年間を通じて加工販売している。特に冬期間の収益につながっている。



写真3 からほろマルシェ

主な加工品	山菜と高冷地野菜を上手に組み合わせた漬物、シソ巻き、笹巻き等
主な販売場所	山の内産直、移動軽トラ産直「からほろマルシェ」での仙台圏等でのイベント販売

※からほろマルシェ：市内8団体が集まって軽トラにおそろいのデザインされた幌を装着して、イベント等に出店し、市内農産物のPR販売する団体

第2表 産直施設・加工施設における売上状況

年度	産直施設		加工施設	加工施設（個人利用）	
	開催回数	売上金額	売上金額	利用回数	利用料
H26	49回	998,260円	115,500円	22回	37,245円
H27	34回	753,170円	105,194円	29回	49,265円
H28	36回	758,800円	42,850円	41回	56,265円

※加工施設の個人利用による売上金額は未集計

(2) 経営改善の状況、今後の方針について

現在、小学生の教育旅行については、日中、各農家を訪問し「農家・農業」を体験し、「やまぼと」で宿泊する形であるが、将来的には「農家民泊」ができる体験メニューを作りたいと考えている。また、平成29年には商品パッケージ開発に取り組み加工品等の販路拡大を予定している。

今後、村山市では、市内に点在する自然、景観、食文化等の地域資源や農業体験、観光施設等をつなぎ合わせることで市全域を「アグリランド」と捉え、これに関連する施設・団体をネットワーク化し、地域ぐるみの産業振興と観光誘客を図る取り組みを実施していく予定であり、特に山の内地域の地域資源やこの協議会の先駆的な取り組みは重要な役割を担っていくと考えている。

たとえば、市観光物産協会を通じた体験事業「採れたて山菜のてんぷらをそばと食べよう」や「山の恵みを楽しむ紅葉ブナ林トレッキング」などのツアー受入れを進め、実績・経験を積みながら、「アグリランド」へ発展させたいと考えている。また、地域内の山の内わらび園や、じゅんさい採取体験（富並地域）、既存の農家レストランや「やまぼと」、個人で行う民宿やゲストハウスの宿泊施設などを「アグリランド」としてネットワーク化したいと考えている。

3. 生活・環境整備面における特徴

(1) 生活・環境整備面の取組状況

体験事業を展開することで、高齢者の生きがいづくり、世代間交流等のコミュニティ力向上に役立っており、地域活性化につながっている。

具体的には、体験事業に携わることが農家や林家（炭焼き、山菜採り）、主婦（郷土料理）など地域内の老若男女を結びつけ、地域内のコミュニティ力向上が図られ、高齢者の役割が見直される結果となった。

また、産直施設には「お茶飲みスペース」があるため、常に高齢者などが集まるコミュニティができています。冬場には、加工所に家庭の漬物を持ち寄るなど年間を通して、コミュニティの拠点施設となっている。



写真4 農作業体験



写真5 川遊び体験

体験事業	農作業体験、山菜・農作物収穫・加工体験、川遊び体験、雪かき・雪下ろし・雪遊び体験、炭焼き体験、餅つき・そば打ち体験、郷土料理体験（笹巻き・納豆・漬物作り）、芋煮会、星空観賞体験等
------	---

（2）都市住民との交流等への寄与状況

都市住民等を対象にした教育旅行受入れ事業や交流イベント事業等を実施し、年間約7,000人が来訪している。



写真6 ブナ林トレッキング



写真7 大おさいとう

教育旅行 受け入れ	宮城県塩竈市より修学旅行で小学生（約 80 名）を受け入れ（2 泊 3 日）、地域総参加で、農作業体験、ブナ林トレッキング等を実施
交流イベント	葉山山岳マラソン、雪祭り（雪灯籠）、大おさいとう、山菜祭り、収穫祭（なめこ祭り）等
体験事業等 来訪者	宿泊：1,000 人/年 日帰り：4,000 人/年
交流イベント 来訪者	2,000 人/年（産直含む）

（３）地域への定住促進、新規就農者について

山の内地域における交流活動の進展により、交流人口の増加や経済活性化が図られ、ひいては定住人口の増加につながることを期待している。

（４）女性の社会参画の促進状況等について

山の内地域づくり協議会は、地域の自治会役員や婦人会、青年団・老人クラブからなる組織であり、女性に限らず、地域の各年代・各層において、それぞれの期待される活動や役割を果たしている。

また、拠点施設となる「やまばと」の産直施設や加工施設の運営において、女性の参画は不可欠であり、県内外からのファン・リピーターを集める交流活動の要となっている。

なお、協議会構成員 42 名のうち、女性は 13 名であり、約 30% を占めるほか、直売・加工部会においては、その占める割合は更に高くなっている（直売部約 80%、加工部約 70%）。



写真 8 加工部門での女性の活躍